

令和7年度 認定こども園いちじまこども園 こども園評価の結果と改善の方策

教育・保育の理念	受容・信頼・貢献感 ～生きよう 力いっぱい 自分らしく まっすぐに～	
保育者の姿勢	よく見て、よく聴いて、よく考えて言動する	
本年度の重点的改善方策	<p>○「子どもが夢中になって遊ぶ環境構成」のさらなる充実に向けて、昨年度の研究の積み上げをもとに、さらに園児が自らの思いで活動し伸びている環境づくりを推進する。</p> <p>○職員研修の推進にあたって、適宜外部講師を招聘するとともに、現場の職員同士の意見交換を重視した研修方法を採用し、三園交流・幼小連携を含めて、現場の実情に基づいた研究協議を重ね、職員集団の共通理解を深めていく。</p> <p>○より安全な保育・教育環境を確保するため、見直しをした本園の安全計画を職員に周知してその確実な実践を進めるとともに、業務継続計画（BCP）の研究にも着手する。</p> <p>○保育者と保護者の子育てについての情報共有・共通理解を進めるために、子育てに関する具体的な情報や、園の取組の目的や様子を、情報ツールも活用して発信していく。</p>	
評価の項目	アンケートのまとめ（○成果と△課題）	改善の方策
教育・保育の充実	<p>○園庭の環境を見直すなかで、砂場を整えたり、玩具を買い足したりして、子どもがより自主的に遊べる環境を整えた。</p> <p>△年度の後半になると、環境会議の定期的な開催ができず、職員間の話し合いの場を設定して取組の情報共有や修正をすることが難しかった。</p> <p>△年齢にあった教材・取組の内容設定や個々の子どもの成長発達に合わせた環境構成についての職員のさらなる研修と共通理解が必要である。</p> <p>△とくにキンダーにおいては、家庭で絵本に接する時間が少ない。</p>	<p>・『子どもが夢中になれる環境構成』について、子どもにとってどうあるべきかを職員が話し合える会議を定例で持つ。各クラスから一人でも多くの職員が会議に参加できる態勢づくりに努め、多くの職員で目標・方針の確認と情報共有する時間の確保に努める。</p> <p>・絵本に関する実践をさらに進め、そのドキュメンテーションを園から配信して、家庭での読み聞かせについての啓発を進める。</p>
健康支援及び衛生管理	<p>○感染症、疾病の状況を情報発信アプリで早期に知らせ、感染症について啓発していくことができた。</p> <p>○園庭、園のまわりの清掃・整備を進め、明るい環境づくりができた。</p> <p>△園庭の玩具の片付けの場所がわかりにくいことで、子どもたちによる自発的な片付けが定着しにくかった。</p>	<p>・今後も感染症予防に向けた情報発信に取り組むとともに、「はやね・はやおき・あさごはん」をはじめ、健全な成長を支えるための啓発を継続する。</p> <p>・園内、園外ともに整理整頓のしやすい環境を整えていく。保育者が整理整頓する様子を見せたり、子どもと一緒に片付けをしたりすることで、子どもたちの自主的な行動を促したい。</p>
食育の推進	<p>○食育だより・給食参観で、保護者の食に関する悩みをもとに、その対処法や園での喫食の様子を知らせたことで、保護者との取組の共通理解が図れた。</p> <p>○園の畑の手入れを体験したり、作物の発育の様子を定期的に知らせたりすることで、子どもたちの食への興味関心につなげることができた。</p> <p>△園・家庭を問わず、好き嫌いにより、食事の時間を楽しめていない子が少なからずある。</p> <p>△各クラスでのクッキングの取組の様子にばらつきがある。</p>	<p>・元氣クラブさんと連携し、畑での栽培・収穫体験を継続して行うことで、食べ物を大切にす気持ちや食への関心を高める。</p> <p>・園内での給食会議で、給食内容および提供の仕方や食事の時間の持ち方についての検討を行う。</p> <p>・自分たちで調理する楽しさを体験できる機会を充実させ、食への関心と意欲を高められるようにする。</p>
災害への備え及び安全管理	<p>○毎月の避難訓練を適切に行うことができた。子どもたちに避難方法が定着しており、職員の指示により安全に避難できるようになってきた。</p> <p>○BCP（案）を作成することができた。</p> <p>△園玄関への送迎の際に、チャイルドシート、シートベルトの着用やスピードが出ている場合など、おたがいの安全が危惧される場面が見受けられる。</p>	<p>・BCPの充実を図るために、さらに研究と研修を進める。</p> <p>・園内の交通安全教室に保護者の参加を募り、子どもと一緒に交通ルールを学ぶ機会を作る。</p> <p>・駐在所と連携して安全運転の啓発をすることで、交通安全への意識の向上と、安全走行の実践の向上を図る。</p>
子育て支援	<p>○ドキュメンテーションを週に一度のペースで配信することで、子どもたちの様子を保護者の皆様により多く見てもらうことができるようになった。</p> <p>△園行事、伝承行事の活動内容について、保護者に保育者の意図やねらいがうまく伝わらないことがあった。</p> <p>○「給食・おやつのちょこっと参観」を通して、実際の食事量や食べている様子を見ていただくことで、家庭での食事についても良い啓発機会となった。</p> <p>△スモックの導入について、移行期間を含め、不安を感じておられる保護者が少なからずおられる。</p>	<p>・保護者の方がより安心してこどもを園に預けられるよう、又、こども園の教育保育の理解につながるように、ドキュメンテーションや園から配布する手紙には、保育者の意図や活動のねらいを記述していくようにする。</p> <p>・スモックなど、新しいことを導入する際には保護者への丁寧な説明を行う。職員間でも方針について丁寧に共通理解をする機会を確保する。</p>
人材育成	<p>○定期的に園内研修を行い、お互いの教育保育を見合うことができている。園内研修の参加率もあがった。</p> <p>△園内研修についてはフィードバックの質を見直す必要があるとともに、園行事が立て込んでくるとくに下半期の参加人数の確保が難しい。</p> <p>△外部研修については、研修して学んだことを他の職員への還流ができにくい。また、職員の外部研修への参加意欲をさらに高める必要がある。</p>	<p>・園内研修については、早い時期での設定をすることにより、その後の継続した実践につなげていく。</p> <p>・園内研修については、研修に参加する視点を決めることで、より丁寧に子どもの様子を見ることができるようになる。</p> <p>・外部研修の還流は、園内の定例会議の中で研修内容の共通理解をしていけるようにする。</p>
評価委員による総合評価	<p>○本園の特色ある取組である「自然環境教育」と「食育」については、地域の方々の協力を得ながら、きめ細やかに取り組まれており、園児の育ちに着実に積み上がっている。今後も、季節の伝承行事も大切にして、取組を進めていただきたい。</p> <p>○ふれあいわくわくカーニバルやこどもえんまつりなどの行事では、園児たちの日々の遊びや生活の様子を無理なく伝える内容が工夫されている。今後も、個々の園児のありのままの姿を大切にす理念を具現化した行事のあり方を模索いただきたい。</p> <p>△避難訓練の充実をはじめ、災害への備えとしての防災対策のさらなる推進とともに、送迎時の園周辺での園児の安全確保のためにも、保護者を含めた、交通安全意識の高揚に向けての取組を推進されたい。</p> <p>△子育てについての相談や共通理解については、園と保護者の間でキャッチボールのようなやり取りをめざして取り組まれたい。</p>	
来年度の重点的な取り組み	<p>○引き続き、「子どもが夢中になれる環境構成」をはじめ、「子どもたちの笑顔と成長のために」という目的を明確にもって、取組内容の目標や方針について、できるだけ多くの職員で協議と共通理解ができる会議や研修の機会を確保する。そのために、会議の定期開催の確保や研修の実施時期について年間計画への位置付け、研修の視点の工夫などを図り、日々の実践の着実な向上を期する。</p> <p>○さまざまな災害への対応マニュアルのさらなる充実や避難訓練の実施などの防災対策、送迎時の安全確保のための交通ルールの啓発、BCPの研究・研修に取り組み、より安心・安全な園づくりを推進する。</p> <p>○子育てについて保護者・家庭と同じ方向で取り組めるよう、園の取組の方針や状況、各行事の持つ意義などの情報発信を、さまざまな機会と手段により展開していく。</p>	

